

西聖

第88号

◆「同行同修」～共に学び 共に行ずる～

会長 千田 祥幹 2

◆東日本大震災慰霊行脚..... 3

◆令和6年能登半島地震支援活動 4

◆第27回チャリティバザー開催報告 7

◆令和5年度 第2回研修会 8

◆青年会員をたずねて②..... 9

◆サンタピアップみやぎボランティア会 ... 10

◆令和5年度会員大会 12

◆第48回曹洞宗青年会

東北地方集会「青森大会」..... 12

◆今後の予定..... 12



会長挨拶

「同行同修」～共に学び 共に行ずる～

第28期会長 洞雲寺 副住職 千田 祥幹

今年元日に発生した能登半島地震により、石川県を中心とした地域では家屋の倒壊、大規模な停電と断水、火災、更には津波等の甚大な被害を受け、大勢の方が犠牲になりました。能登半島には總持寺祖院や永光寺をはじめ多くの曹洞宗寺院があり、我々宗侶や檀信徒にとっても信仰の拠り所となっている地域でもあります。今なおご家族の安否が不明の方や、避難を余儀なくされている皆様のご心痛は計り知ることができません。亡くなられた皆様に衷心より哀悼の意を表しますとともに、ご遺族と被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

地震発生以降、当会では現地への支援物資の提供や、仙台・石巻での二度にわたる街頭募金活動を行ってまいりました。さらに被災地での直接的な支援活動を思案していた二月には、十二教区青年会様が石川県七尾市での炊き出しを計画されていたことから、宮曹青もこの企画に加担させていただくことができました。現地避難所へ向かう途中で目にした、屋根にブルーシートを被った家々や倒壊してしまった家屋の姿は十三年前の東日本大震災を彷彿とさせる悲惨な光景でした。そのようなかでも被災地に向かう多くのトラックや他県ナンバーの災害支援車の列、そして何より困難な状況でも手を取り合い懸命に過ごしている避難者の皆様の姿を目の当りにし、少しづつでも復旧に向かって前進することの大切さに改めて気付かされた気がいたします。

しかしながら長引く避難生活に、ある避難者の方は「全壊した自宅に帰ることができず、疲れもピークに達してきました」とお話しされていました。避難者の皆様が一日でも早く心穏やかに暮ら

せる日が来ることを切に祈り、今後も様々な支援活動に取り組んでまいれる所存です。

さて、当会の今期これまでの活動に関しましては、皆様方のご協力を賜りながらコロナ禍前とほぼ同様の形で各行持を務めることができました。研修会、カンボジア教育支援チャリティバザー、会員大会と、各担当委員会がコロナ禍で得た知見を活かしつつ、また新たに創意工夫をしながら企画立案に尽力してくれました。そして、そのすべての行持にこのコロナ禍の間に加わった多くの新青年会員が参加してくださいました。これまでの会員と新入会員が共に切磋琢磨しながら活動するその姿はまさに、今期のスローガンを

「同行同修～共に学び 共に行ずる～」を体現したものであります。また、今期の新たな試みとして始めたものがSNS（インスタグラムとフェイスブック）による情報発信です。我々青年僧侶の日常と当会の活動についてより広く知っていただきたいとの思いで始めたものですが、おかげさまで多くのフォロワーを頂き、世代・地域・職種を問わず様々な方とご縁を結ぶことができました。特にチャリティバザーやカンボジアフェアにおいては「インスタグラムを見て来ました」という方も少なからずおられ、SNSの影響力の大きさを実感いたしました。さらに能登半島地震に際しては、これらを通じて他県曹洞宗青年会やボランティア団体と情報共有をするなど、発災早期段階での支援の連携協力にも大きな役割を果たすことができましたことは特筆すべき点であったと存じます。今後SNS上での情報の取り扱いには最大限注意を払いつつ、積極的に活用してまいりたいと考えています。

結びに、宮曹青における歩みの中で特に東日本大震災発生以降、私が諸先輩老師から学ばせていただいたことは「すべての方々の苦しみ悲しみに寄り添うことの大切さ」でありました。この度の能登半島地震の支援活動においても、それを常に忘れずに務めていく所存です。今はまだ復興よりも復旧が目標とされており、それは同時に長期的な支援が必要であることを意味します。距離的に遠く私達にできることに限りがある状況ではありますが、それでもなお被災地に寄り添う努力を怠らない、そのような宮曹青でありたいと切に願います。

県内御寺院様はじめ正会員・賛助会員・特別会員の皆様には、これまでと同様にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

東日本大震災慰霊行脚

東日本大震災から丸十三年の時が過ぎました。本年も当会では、海蔵庵本院様より龍谷院様・釜谷霊園・観音寺様、そして旧大川小学校震災遺構までの道のりを命の尊さを感じながら行脚いたしました。

三年間、規模を縮小して慰霊行脚を行ってまいりましたが、本年は新しく会員になった若い宗侶も参加し、二十四名という多くの会員で修業することができました。また、旧大川小学校震災遺構では、午後二時四十六分のサイレンで参列者の皆様と手を合わせ、黙祷を捧げ、その後の慰霊法要では、地元御寺院様はじめ多くの僧侶の皆様と共に供養させていただきました。

「同行同修」あの起きたことを自身の胸に刻み、今を生きる私たちが共に手を取り合い、これから先も大切なものを守っていく、その想いを今後も繋いでまいります。

結びになりましたが、慰霊行脚開催にあたり多大なるご協力を賜りました、第十二教区海蔵庵御住職佐竹泰生老師はじめ関係者の皆様に心より感謝を申し上げます、ご報告いたします。

(交流事業委員長 三田村孝成)



令和六年能登半島地震支援活動

令和六年一月一日午後四時十分頃、石川県能登地方を震源とする大きな地震が発生しました。最大震度七を観測し、日本海側の広い範囲で大津波警報や津波警報・津波注意報が発表されました。十三年前に東日本大震災を経験した我々としても、飛び込んでくるニュースや情報に非常に胸が締め付けられる思いがありました。

一月四日、NPO法人ふうどばんく東北AGAIN様が、現地に届ける物資を集めているという情報をSNSで目にし、会長と監事の二名で支援物資を届けました。物資は震災を機に発足した石巻市のボランティア団体さんを通じて現地へ運ばれました。一月九日には、石川県で支援活動に奔走されている老師より、日頃から親しくしている石巻市のご寺院様に、毛布等の物資が不足しているから送ってほしいとのこと要望がありました。宮曹青としても微力ながら毛布提供のお手伝いをさせていただきました。各教区理事から各教区の青年会員に呼びかけていただき多くの物資を送ることができました。また、募金活動も仙台市と石巻市で行い、日本赤十字社を通して全額寄付させていただきました。

二月二十一日には、石川県七尾市小丸山小学校にて炊き出しを行いました。東日本大震災の後、第十二教区のご寺院様が立ち上げたNPO法人と同教区青年会のキッチンカーによる炊き出し活動に、宮曹青として加担させていただきました。避難所を運営する代表の方に事前にニーズを確認し支援物資も手渡すことができました。献立は仙台魅入りの野菜う

どんで七十食提供しました。初めて仙台魅を召しあがった方も多く、たくさんのお話をいただきました。お食事をお渡しする際、少しお話をさせていただきましたが、ある方は「もう疲れがピークになってきました」と話していました。心穏やかに暮らせる環境が少しでも早く整えられることを願うばかりです。

宮曹青は、今後細くとも長く、その時々々の現地のニーズに応えられるよう被災地に寄り添い続けてまいりたいと思っております。



令和六年能登半島地震支援活動



全曹青 高柳副会長



永光寺 様



現在石川県宗務所長をお務めしている
永光寺御住職 屋敷老師(右)と島田副所長老師(左)

カンボジア教育支援

第二十七回チャリティバザー開催報告

今回で二十七回目となるカンボジア教育支援チャリティバザーを開催いたしました。コロナ禍の影響で中止や規模を縮小して開催してはりましたが、四年ぶりにコロナ禍以前の規模で開催することができました。

このバザーは、カンボジアの教育事情を改善するために行われる重要なイベントです。カンボジアではまだまだ教育機会が限られており、多くの子供たちが学ぶ機会を得られていません。そこで、私たちは子供たちの未来を明るくするため、教育支援活動を行っております。

今回のバザーでも、県内の御寺院様からたくさんのお品物を提供していただきました。サンタピアップみやぎボランティア会のブースも設けられ、クラフト商品の販売を行いました。また、会場内に募金箱を設置し、たくさんのお金をいただきました。心温まるご支援に感謝の気持ちでいっぱいです。売上金といただいた寄付金は、全額をカンボジアの小学校の建設と教育支援活動への基金として寄付させていただきます。

バザー当日は、会長よりカンボジアの教育事情とバザーの趣旨について説明しました。カンボジアの苦境を知ること、皆様に支援への思いを一層強くしていただけたと思います。

今回会場教区を快くお引き受けいただきました第十八教区青年会様をはじめ、第十八教区御寺院様、寺族会様、第十七教区御寺院様、くりはら葬儀社様のご協力に大変感謝申し上げます。皆様の地道な広報活動のおかげで、当日は百五十名を超える方々にご来場いただきました。また、皆様のご厚意とご支援により、今年のカンボジア教育支援チャリティバザーを開催できました。引き続き、カンボジアの教育支援にご協力いただけますと幸いです。

最後に、今期宮曹青のスローガン「同行同修」の思いのもと準備を重ね、ご来場いただいた皆様のため、そしてカンボジアの子供たちのために、会員一同共に進めることができました。今回のバザーにご協力いただきました関係者の皆様に感謝を申し上げます、報告とさせていただきます。

(ボランティア委員長 佐藤泰澄)



- ◆開催日時/令和5年9月13日(水)
- ◆開催会場/栗駒総合体育館(会場教区第18教区)
- ◆参加者/前日準備会83名 当日69名
延べ152名参加
(会員 開催教区寺院・寺族会・協力企業)
- ◆来場者総数/151名
- ◆販売商品数/3,656点
- ◆売上金額/653,800円
※売上金は、全額サンタピアップみやぎボランティア会へ寄付
- ◆サンタピ会場募金/70,541円
- ◆サンタピブース売上/3,810円
- ◆エコバッグ売上/13,800円

宮城県曹洞宗青年会 主催
第二十七回カンボジア教育支援チャリティバザー会場

令和五年度 第二回研修会

令和五年十一月二十日(月)、第二十一教区洞雲寺様にて廣瀨寺御住職特派布教師奥野昭典老師を講師としてお招きし、演題を『日常の檀務における法話の基礎知識と実例』と題して今年度第二回研修会を開催いたしました。

本研修会では、前回の研修を踏まえ青年宗侶として日頃の檀務において、檀信徒の方々などに対して法話をする際の基礎知識や気を付ける点などを、実例を通じて学ぶことを目的としました。

また従来の形式ではなく、講義の途中で会員相互に意見交換をするグループディスカッションの時間を設けました。それぞれの日常の檀務での取り組みや考えを述べ、また聞くことで新たな学びや気づきを得ること、そしてディスカッションを通じて関心を高めた状態で後半の講義に臨むことを目的とし、また会員相互の交流となるよう行いました。

当日はリモート受講者を含め五十二名が参加し、はじめに奥野老師より法話の基礎や基本的なことについてご講義いただき、その後あらかじめグループ分けをした班にて五十分ほどのディスカッションを行いました。

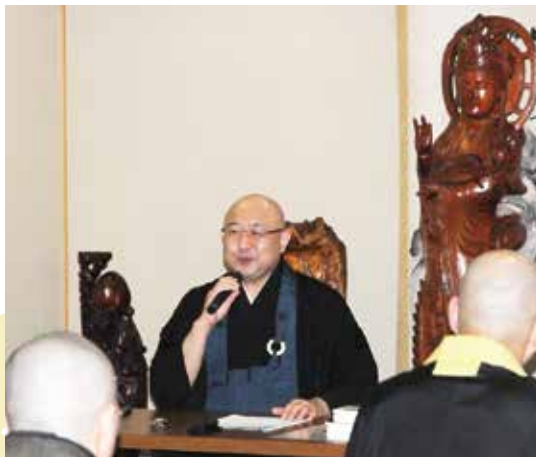
慣れない取り組みでもあり、参加者が

遠慮して上手く進まないことも心配しましたが、各班に進行役と話の内容を書きとめる書記役を置いたことでディスカッションが円滑に進行し、時には笑い声上がるなど和やかな雰囲気の中で活発な意見交換が行われ、参加者からは「あつ」という間だった。楽しかった」という声も頂戴することができました。

研修の後半では班ごとにまとめた意見や疑問点を各班の代表者が発表し、老師よりその内容についてお答えいただくとともに、日常での檀信徒や地域の方々との付き合いが大切であるということや、『話す』ことだけではなく『聞く』ということの重要性について実例を挙げてお示しいただき、最後に全体を通しての質疑応答をもって研修を終えました。本研修を通じて学んだことを日常の檀務に活かしていただければ幸いです。

来年度も会員皆様にとって少しでも学びや気づきとなるような研修を企画運営してまいります。

(研修委員長 岩井太秀)



講義をする奥野昭典老師



ディスカッションの様子



青年会員をたずねて②

～様々な活動をされているご寺院様の紹介～

とうとうんじ
加美町 洞雲寺様



「青年会員をたずねて」は第二回目となります。様々な活動をされているご寺院様の紹介ということで、今回は池坊正教授二級という資格を取得しており、ご自坊でも華道を教えている加美町洞雲寺御住職田崎元章師にお話を伺いました。

洞雲寺様は、応永元年(三九四)に現在の山形市にある解大山安養寺二世 舟淵玄鑑大和尚により斯波氏宗家の領地内に開山され、その後、三度の移転を経て現在地に境内を構えました。山号を蟠龍山とし、六百年以上の歴史を誇る古刹です。

田崎師が華道に出会ったのは、札幌中央寺での安居中とのことで、送行後ご自坊に戻ってから池坊の学校機関に通いながら研鑽を続けられました。池坊という言葉は多くの



生花(しょうか)

方が耳にしたことがあると思います。正式には「華道家元池坊」と呼ぶそうです。京都にある紫雲山頂法寺(六角堂)の住職が代々家元を務め、いけばなの根源ともいわれており、五百五十年以上の歴史があります。

いけ方にも厳しい決まり事があり、「立花・生花・自由花」という三種の格式がある中で、今回はご自身でいけた「生花」についてご説明をいただきました。

「生花」とは、江戸時代中期に成立した様式で、二・三種の花材を用い、草木が地に根を張り生きる姿を表現します。真・副・体と呼ばれる三つの役枝で構成され、手軽にいけられることから当時の庶民の間でも流行しました。基本的には床の間に飾るもので、床柱に日の光がある想定で植物がもつ向日性(太陽光の強い方へ向かって屈曲する性質)をいけあわすそうです。

田崎師は、先住様からお寺を引き継いだ際、「明るく清潔で美しいお寺にしたい」という思いを抱かれたそうです。陽の光にたたくむ枯山水の庭

と洒掃された境内、そして床の間のいけばなが一体となって整えられた洞雲寺様は、まさに田崎師の思いを体現したものであります。現在でも月二回、華道の教室を開いているそうなので興味のある方は、ご連絡してみたいかがでしょうか。



点てていただいたお茶



枯山水の庭

千九八―四四〇―
加美郡加美町宮崎字東町六八一
☎〇三二九(六九)五二七



宮曹青主管 カンボジア教育支援活動
サンタピアアップみやぎボランティア会

各イベント等での活動
(サンタピアアップブース設置)

各会場にて活動紹介・カンボジアパネル展示、
 クラフト販売・募金活動・写経体験などを実施さ
 せていただきました。

◆ふうどんぼんく東北
AGAIN主催
みんなのマルシェ

○令和五年九月三日
 ○於 ブランチ仙台



◆梅花流創立七十周年
宮城県奉讃大会

○令和五年十月三日
 ○於 仙台サンプラザ
 ホール



◆ふくしま禅フェス

○令和五年十月十五日
 ○於 會津藩校日新館



カンボジアフェア「SELVA」開催報告

- 日時…令和五年十二月十二日～十二日
- 会場…仙台市泉区中央「SELVA」
 一階センターコート
- 来場者…約八十名(二日間延べ)
- スタッフ…三十三名(二日間延べ)



- ▼クラフト販売 売上合計 五三,四〇〇円
- ▼募金 募金合計 五一,五六三円
- ▼写経販売 二,四〇〇円 ハガキ提供 二〇〇枚

「カンボジアフェア」藤崎開催報告

- 日時… 令和六年三月七日～八日
- 会場… 仙台市青葉区「番町」藤崎
街頭アーケード内
- 来場者… 約二〇〇名(二日間延べ)
- スタッフ… 二十六名(二日間延べ)



- ▼クラフト販売 売上合計 八四、二〇五円
- ▼能登半島支援募金 四九、九六六円
- ▼サンタピアップ募金 一、〇〇〇円
- ▼写経販売 八、七〇〇円 ハガキ提供 百十二枚

※SELVA様、藤崎様でのフェアでは、ご来場の方にはホシヤマ珈琲店様提供の美味しい珈琲を飲みながら、小学校贈呈式の様子などの映像もご覧いただきました。また、SELVA様では写経体験も開催いたしました。

「ハガキリサイクルキャンペーン」

中間報告

この一年間で、皆様に収集いただいた書き損じハガキと切手の集計作業を行いました。二月二十六日現在、事務局まで届いているハガキ切手を集計した数となります。

全国の御支援者様より沢山のご提供をいただきました。誠にありがとうございます。

「集計作業」

- 日時… 令和六年二月二十六日
- 会場… サンタピアップ事務局
- 参加… 十七名

「集計結果」

書き損じハガキ 合計七、七九九枚
切手 額面換算 合計二八〇、九四〇円



皆様からお寄せいただいた書き損じハガキや切手は、新しいハガキや切手に変えて県内御寺院様や団体企業様にご購入いただき、その売り上げをカンボジア教育支援の為、活用させていただいております。

オリジナル卓上カレンダー2023販売報告

今年度もオリジナルカレンダーを作成・販売いたしました。

お客様でたくさんのご注文をいただき、各事業収益と共に教育支援費として活用させていただきます。

「カレンダー制作販売数」

三、〇〇〇部 (一部 三〇〇部)
売上合計 九〇〇、〇〇〇円



一枚のハガキや切手が子どもたちを支えます

「書き損じハガキの送り先」

〒981・0944
仙台市青葉区子平町3・23
仙台子平町郵便局留「サンタピアップ」宛

「支援金の送り先」

郵便振替口座
名義 サンタピアップみやぎボランティア会
□座番号 0229016148744

「サンタピアップ事務局」

〒981・0933
仙台市青葉区柏木3・7・40 江巖寺内
TEL: 080(3144)3020(専用)
FAX: 022(276)7426
E-mail: info@santapi.com/
ホームページ: https://www.santapi.com/



令和五年度 会員大会

令和六年二月五日、「令和五年度会員大会」を開催しました。第一部では、曹洞宗宗務庁人権擁護推進本部の本多清寛師より「寺院におけるLGBTについて」と題してご講演をいただきました。そもその「性」という考え、種類という基本的なところから、講師先生の経験を交えた深いお話までお伺いし、心のよりどころとなるべき宗教、それに関わる者として改めて熟考すべき問題であると実感しました。本会は四年ぶりの通常開催ということで参加者の減少も危惧されましたが、八十名を超える多くの正会員・特別会員の皆様にお集まりいただけました事、この場をお借りして御礼申し上げます。

(事務局長 都築達明)

第二部ボウリング大会では、正会員・特別会員の枠を超え各レイン・丸となって終始和気藹々とした雰囲気の中、皆様大きな怪我も無くプレーいたしました。第三部懇親会は、ボウリング大会引き続き大変賑やかな場となりました。

同行同修のもと、参加者皆様が、第一部より同じ学びを得て、同じ時間を過ごしたこと、会員相互の親睦も更に深まり、盛会裡に終えることができました。

(交流事業委員長 三田村孝成)



講義をする本多清寛師

第四十八回曹洞宗青年会 東北地方集会「青森大会」

令和五年十月二十日(金)、第四十八回曹洞宗青年会東北地方集会「青森大会」が青森市ル・グランクールを会場に開催され、当会から十二名が参加してまいりました。五所川原第一高等学校津軽三味線部の迫力のあるオープニングセレモニーから始まり、東日本大震災物故者追悼法要、記念式典と続き最後には大本山總持寺副貫首 盛田正孝老師より演題「若き仏たちへ」と題した講演を拝聴させていただきました。



大本山總持寺副貫首 盛田正孝老師

今後の予定

- ◎四月 十七日 令和六年度定例総会 於中央清月記 千僧法要
- ◎四月 二十六日 全曹青五十周年記念式典・講演・定期総会 於曹洞宗檀信徒会館
- ◎五月 二十三日 〓二十四日 ソフトボール大会 於仙台市海岸公園野球場
- ◎六月 五日 災害復興支援活動 全国研修会東北管区 於二十一教区見松寺
- ◎七月 八日

編集後記

当会の活動が例年のように戻り、各事業の様子をホームページや今期より開設したインスタグラム・フェイスブックでも更新しております。しかし、令和六年能登半島地震が発生し、今でも多くの方々が避難を余儀なくされております。今後も長期的な支援活動を行い、一日でも早く穏やかな日常に戻ることを願っております。

(広報編集委員長 佐藤邦彦)



MIYASOU.28 宮曹青インスタ



表紙写真 旧大川小学校 慰霊法要の様子



無聖 第88号 (令和6年3月31日発行)

表紙題字 宗務所長 伊藤守弘 老師
 編集 宮城県曹洞宗青年会
 発行人 千田祥幹
 事務局 宮城県仙台市太白区 鉤取4-1-21 鉤取寺内
 TEL 090-2849-3830 (専用)
 FAX 022-243-1832
 URL http://miya-sousei.com
 E-mail info@miya-sousei.com